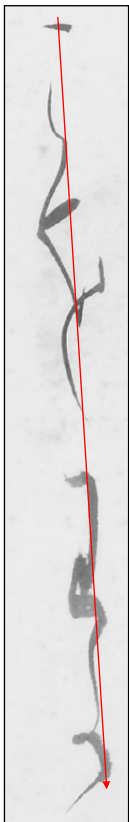


ピンと張りつめたような厳しさのある筆使いで書き始めている。特に「わ」の横画からの左払いの勢いには目を奪われる。さらに「勢」の清らかで伸びやかな線は品位が高く、単なる勢いだけでは表現できない線だ。

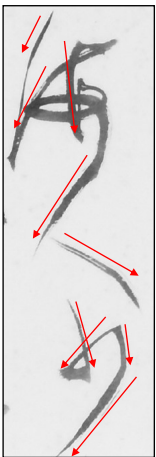


字幅の狭い文字を四つ並べて縦の流れを生んだ表現に

なっている。ただ、筆の動きは大きく、懐の広さを感じる字形になっていることに注意してゆったりと表現することが大切だ。



二行目の頭で含墨が少なくなってきた中での表現だが、筆の先を生かした伸びやかな筆の運びは健在である。連続



唯一の墨継ぎの部分で、キレイのある厳しい線で書き出している。直線的な筆の運びがこの味わいを出すのに必要だろう。縦画を含めた直線の傾きによる表現はこの作品の特徴的な部分になっているので心して書き進めたい。



「女」の字の優雅な線に注目すべきだ。一画目こそ直線的だが、そのあとは伸びやかかつ深い味わいのある線質になっている。



最後の部分だが、勢いに乗った筆の運びで一気に仕上げていく。「海人少女」の表現に対応するかのようなリズムミカルな筆の運びは特に味わい深い

わ可勢こを王可松原よ
見わたせ八海人少女ども
玉藻刈るみゆ

今月は三行の散らし書きになっている。一行目が最も高い位置になっていて、初めから見せ場を作っているような構成はあまり多くない。それが逆に新しい表現を感じさせているのも事実だ。墨色と潤濁の変化を大胆にとると共に、筆使いの変化にも思い切ったものがあり、その変化を一つにまとめる難しさも秘めている作品と言える。横に並んだ文字の対比や行間の駆け引き、空間処理にもしっかりと心を配っていることも見逃してはならない。学ぶべき要素に満ち溢れた課題になっている。